

第12期第2四半期 株主通信

〔 2009年4月 1日から
2009年9月30日まで 〕



フューチャーベンチャーキャピタル株式会社



ご挨拶



株主の皆さまには、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当社の事業にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、ここに当社第12期第2四半期(2009年4月1日から2009年9月30日)の決算ならびに事業の概要についてご報告するにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、世界的な金融危機による悪化から一部持ち直しの動きが見られるものの、企業収益は依然として低い水準にあり、厳しい雇用情勢が続く中で個人消費も伸び悩み、引き続き低迷しております。

ベンチャーキャピタル業界におきましても、当第2四半期累計期間中の新規上場企業数が8社(前年同期11社)に止まるなど、収益機会が限定された予断を許さぬ環境が続いております。

このような状況の下、当社では「営業投資有価証券の売却」「投資先企業の育成」「他社との提携」という3つのテーマを重点課題とし、事業を推進しております。当第2四半期累計期間におきましては、それぞれのテーマについて、計画を推し進める新たな仕掛けを導入するとともに、その成果を結実させるべく、営業活動に邁進してまいりました。

現時点での実績は、まだ限定的で売上高の底上げにつながる状態ではありませんが、一方で経費削減努力等により、損益の状況は改善されつつあります。

引き続き早期の黒字実現を目指し、誠心誠意努力する所存でございます。株主の皆さまには、今後なお一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

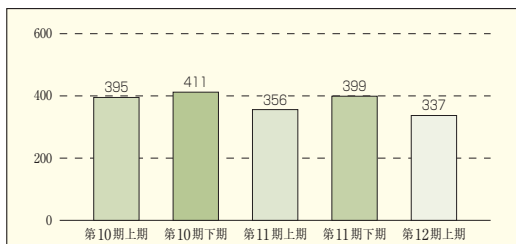
2009年12月
代表取締役社長 川 分 陽 二

※当社では連結での決算を行っておりますが、当社の経営成績及び財務状態をより的確に表すため、本資料では基本的に、子会社及び投資事業組合の当社持分のみを連結した財務数値を記載しております。



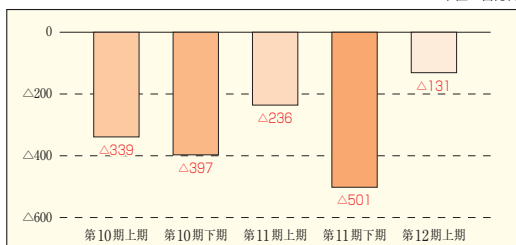
① 売上高

単位：百万円



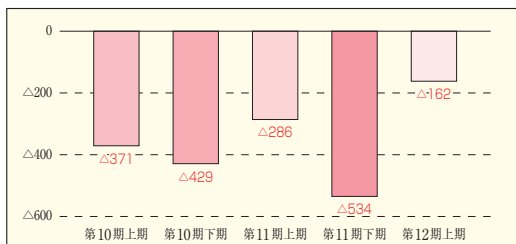
② 営業利益

単位：百万円



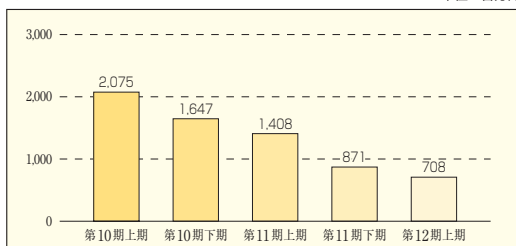
③ 当期利益

単位：百万円



④ 純資産

単位：百万円





業績振り返り

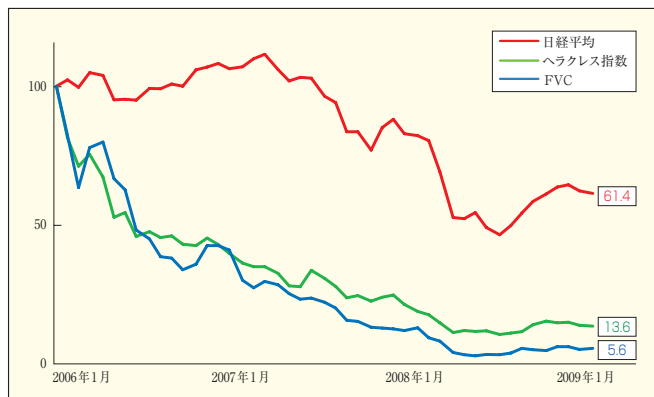
当社は第10期、第11期と、連続して大きな損失を計上しましたが、これらの赤字の主な要因は投資事業組合において発生している損失に起因するものであります。直近の5半期における営業損益の内訳を見ますと、投資事業組合で発生している損益がその大半であることがわかります(⑤)。一方、当社本体及び子会社を合わせた損益状況は、徐々に回復していることもご理解いただけるかと存じます(⑤)。

投資損益の状況が思わしくない要因としては大きく2つ、営業投資有価証券売上高の不振と、多額の投資損失引当金の新規繰入の発生がございます。株式市場、特に新興市場の冷え込みは依然として厳しく(⑥)、投資先企業の上場による収益獲得については、未だ厳しい状況が続くものと想定されます(⑧)。

ただし直近の5半期の推移を見ますと(⑦)、営業投資有価証券売上高は、未上場売却活動の推進などにより緩やかな上昇傾向にあります。投資損失引当金についても、足元の回復基調が見て取れ、今後の改善が期待される状況にあります。

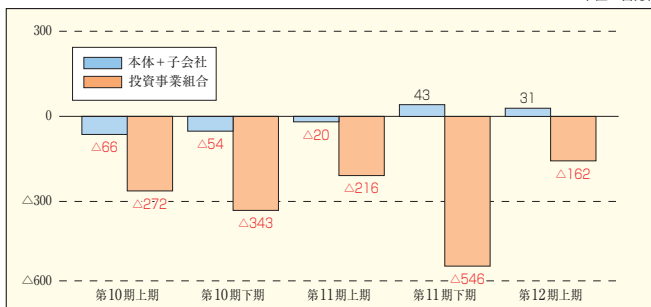
このような経営環境の中、当社としましては、安定的収益で経費をまかなう状況を維持すべく、経費の適正化を進めてまいりました。

⑥ 株価推移 (2006年1月を100とした指数)



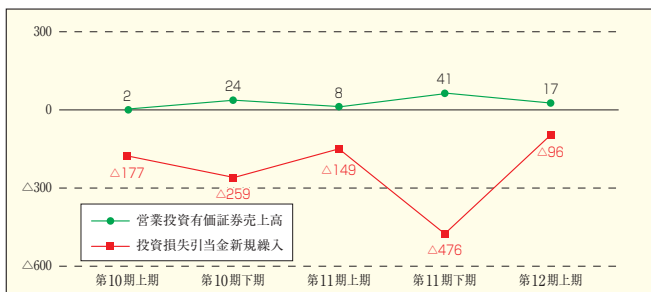
⑤ 営業損益内訳

単位：百万円



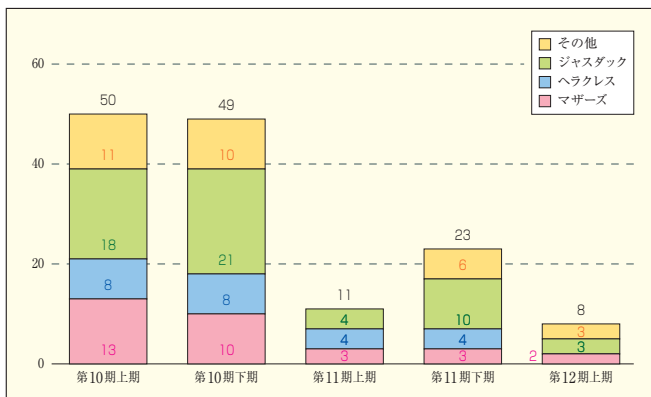
⑦ 営業投資有価証券売上高・投資損失引当金新規繰入

単位：百万円



⑧ IPO 社数推移

単位：社

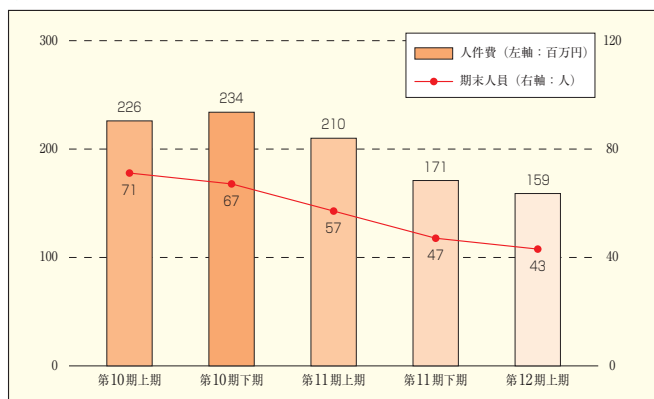


第9期から第10期にかけては、規模の拡大による収益成長を目指し、先行投資を進めた時期でありました。しかしながら、目標とした大型ファンドが想定規模に届かなかったこと等により、収支の均衡が崩れたため、事業拠点の統廃合や組織のスリム化による経費削減を進めてまいりました(⑨)。その結果が先に⑤に示しました、投資損益を控除した本体及び子会社による損益の改善に表れてきております。

企業の継続性という観点におきましては、当社は3期連続で当期損失を計上しておりますが、この赤字は投資事業組合において発生しているものであり、引当金繰入など新たに資金流出を伴うものではございません。本来、投資事業組合は長期的視野で収益を上げることを目的としているにも関わらず、現状はその短期の期間損益を取り込むことにより先行して損失を計上しているものであり、⑤で見たとおり当社単体でみれば営業黒字を確保していることから、企業の継続性が危惧される状況にはないと考えております。

一方、短期的な視点での安定性が確保されるとしても、当社の創業理念であります「リスクマネーの供給によって企業家の夢の実現を応援する」という思いを実現し続けるには、長期的な視点での安定性と成長性が求められます。そこで当社といたしましては、3つのテーマに経営資源を集中することで直面する課題に取り組む方針でございます。

⑨ 人員・人件費推移





(1) 営業投資有価証券の売却戦略

現在の経済環境は、当社が投資対象としております多くのベンチャー企業にとりましても、前進を妨げるものとなっております。

このような中、当社は東京支店に、従来からの投資営業拠点、ファンド募集拠点としての役割に加え、投資先企業の株式売却手段の多様化を推進する役割を付加し、支店長を中心に情報を集約、周知するための人員体制と仕組みを整備してまいりました。

現時点では、これらの取組みを進めている段階にあり、まだ大きな実績に結びつく段階ではありませんが、徐々にその効果が出つつあります。

※ 2009年10月23日、みえ新産業創造第2号投資事業有限責任組合の投資先である、株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所が、JASDAQ (NEO) に上場しました。

<企業情報>

株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所

代表取締役 日高 有一

TEL 052-218-8785

URL <http://www.dwti.co.jp/top.html>

（２）投資先企業の育成戦略

投資先企業の状況に応じた関与方針を定めるとともに、当社経営資源を集中的に投入する投資育成体制を構築しました。

特に当社が運営する投資事業組合の収益、ひいては当社の収益に大きく寄与する投資先企業については、重点投資先として、当社役員等が直接深く入り込んで経営支援を行う体制を整えました。

投資先企業の育成支援活動は、主に中長期的な活動の結果として当社収益に寄与するものでありますが、当社運営ファンドにご出資いただいている皆さまからお預かりしている資金を、最大のリターンでお返しすることを通じ、株主の皆さまに対する収益還元を目指してまいります。

（３）他社との提携戦略

収益軸の多角化という観点におきましては、経営コンサルティング業務、企業再生に係るコンサルティング業務、M&Aアドバイザー業務等を行う新会社（FVCアドバイザーズ株式会社）を設立し、営業を開始した他、複数の事業パートナーとの連携により、収益源の多角化を推進しております。

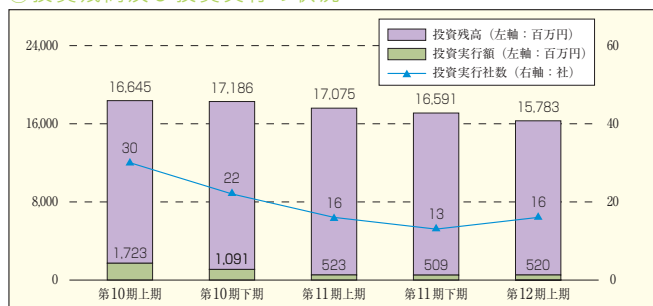
自己資本の増強という観点におきましては、当社事業推進において有力なパートナーとなりうる先や、当社事業に理解をいただいている方々に引き受けていただくことを前提に検討をいたしておりますが、現時点で確定している情報はございません。

投資活動の状況



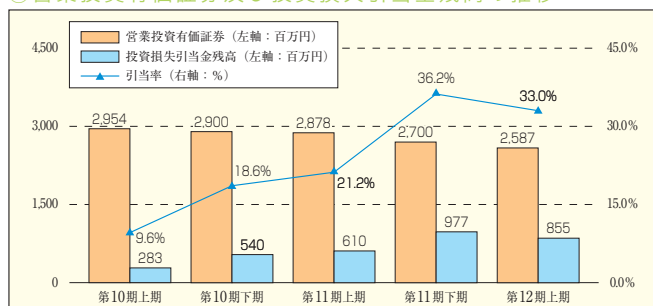
昨今の市場環境の悪化は、有価証券の売却時における株価を押し下げるという形で想定リターンの縮小をもたらすとともに、投資先企業が直面する事業環境が悪化するという形で投資リスクを拡大させます。当社におきましては、個別の投資機会においてリスクとリターンを見極め、厳選しております結果として、投資実行額が減少傾向にあります (⑩)。

⑩ 投資残高及び投資実行の状況



当第2四半期累計期間におきましては、上記のとおり新規投資額が抑えられたことに加え、過去に投資損失引当金を計上していた営業投資有価証券の売却を進めたことにより、営業投資有価証券残高は純減となり、投資損失引当金残高も減少いたしました。またこれらの結果として、営業投資有価証券残高に対する引当率も減少いたしました (⑪)。

⑪ 営業投資有価証券及び投資損失引当金残高の推移

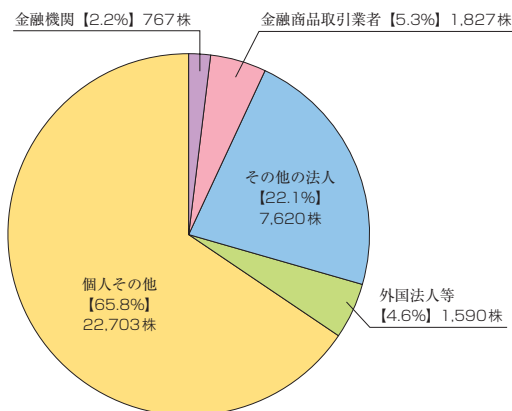




株式データ

- ・発行可能株式総数85,000株
- ・発行済株式の総数34,507株
- ・株主数 1,445人

■所有者別株式分布表



■大株主の状況

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
1 川分 陽二	2,851株	8.2%
2 関西サービス株式会社	1,800株	5.2%
3 藍澤證券株式会社	1,620株	4.6%
4 藤原 洋	1,300株	3.7%
5 坂本 友群	1,286株	3.7%
6 有限会社ヤマカワ	1,250株	3.6%
7 金田 泰明	1,231株	3.5%
8 イーエフジー バンク (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	1,095株	3.1%
9 乾 敏行	900株	2.6%
10 金光 富男	580株	1.6%

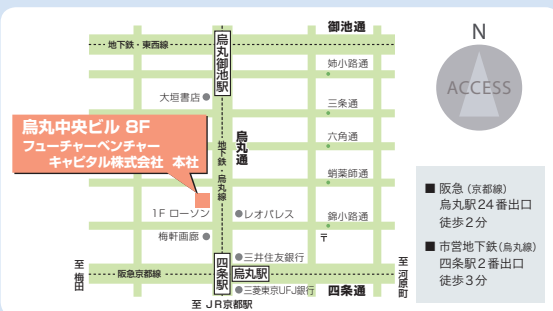
注) 1. 出資比率は自己株式を控除して小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

2. 当社は、2009年9月30日現在、自己株式を12株保有しております。

会社の概要 (2009年9月30日現在)



- 商 号 フューチャーベンチャーキャピタル株式会社
- 設 立 1998年9月11日
- 資 本 金 19億1,193万円
- 従 業 員 数 43名
- 本 社 〒604-8152
京都府京都市中京区烏丸通錦小路上ル
手洗水町659番地 烏丸中央ビル8階
- 管 理 本 部 TEL:075-257-2511 FAX:075-211-1601
- 営業推進本部 TEL:075-257-6656 FAX:075-211-6965



- 東 京 支 店 〒101-0021
東京都千代田区外神田六丁目 14 番 9 号
秋葉原 MF28 号館 9 階
TEL:03-5848-6310 FAX:03-3831-3536
- 事 務 所 青森事務所 岩手事務所 山形事務所
金沢事務所 三重事務所 堺事務所
神戸事務所 愛媛事務所

取締役及び監査役 (2009年9月30日現在)

代表取締役社長	川 分 陽 二	取 締 役	今 庄 啓 二
取 締 役	中 山 淳	取 締 役	小 川 淳
取 締 役	古尾谷博次	常 勤 監 査 役	大 橋 克 己
監 査 役	岡 部 陽 二	監 査 役	小 川 忠 久



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
中間配当金受領 株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特定口座の 口座管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 TEL：0120-094-777（通話料無料）
上場証券取引所	大阪証券取引所 ヘラクレス市場
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.fvc.co.jp/

（ご注意）

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

フューチャーベンチャーキャピタル株式会社

〒604-8152 京都府京都市中京区烏丸通錦小路上ル
手洗水町659番地 烏丸中央ビル8階

TEL：075-257-2511 FAX：075-211-1601

<http://www.fvc.co.jp/>